

CONTENTS

NEWS 第393回常議員会・第186回通常議員総会開催
2024年度事業計画・収支予算書総括表 … P2~3

会員さんこんにちは 株式会社リアリ（訪問看護ステーション リール） … P8



【表紙写真】 株式会社リアリ（訪問看護ステーション リール） / 関連記事 P8 会員さんこんにちは



苫小牧商工会議所
LINE公式アカウント

\\ここから登録/



第393回常議員会

苫小牧商工会議所は3月19日、苫小牧経済センタービルで第393回常議員会を開催した。

報告事項として、スーパーマーケットトレードショー2024について、とまポンスービスの廃止について、常勤役員の退任、事務局人事異動について報告された。

常勤役員の退任については、末松常務理事兼事務局長よりあいさつがあった。※事務局人事異動についてはP7お知らせに掲載。

協議事項では、苫小牧市への商工業振興に関する要望書の提出について、2024年度事業計画書(案)について、2024年度収支予算書(案)



についてなど第186回常議員総会提出議案を決めた。

苫小牧商工会議所 第186回通常議員総会開催
2024年度 事業計画と予算を決議

苫小牧商工会議所は3月26日、第186回通常議員総会を開催し、新年度の事業計画ならびに予算など議案2件を原案通り承認した。

会議に先立ち宮本知治会頭はあいさつの中で、戦争によ

り混乱が続く世界情勢と経済情勢など事業者を取り巻く厳しい環境について言及し、

「事業の継続と雇用の維持に必死に取り組む事業者を後押しする」と述べた。また「質

上げに取り組み中小企業の苦

悩」についても触れ、地元企業を支援する事業計画への理解を求めた。

協議事項として、2024年度事業計画ならびに収支予算を審議。スローガンを昨年に取り引き続き「頼られる商工会議所を目指して」とし、重点事業に「1. 政策提言・要望活動」、2. グリーン社会の実現に向けたエネルギー・環境政策への対応」、3. 都市再生コンセプトプラン・駅周辺ビジョン・スマートシティ構想の推進協力」、4. 当たり前のことをちゃんとやる『経営支援』で『頼られる商工会議所』に、

「5. 自ら機会を創り出し、自らを変える! 『M30計画への挑戦!』」の5つを掲げた。

収支予算については、一般会計ならびに特別会計5会計の総

額5億7679万5000円を計上。支出においては、物価高騰の影響を見込みつつ経費節減に努めながら、重点事業実施のための費用やDX事業促進によるシステム導入費などを盛り込んだ事業予算となっている。

第186回苫小牧商工会議所通常議員総会

胆振経済団体懇談会の
要望活動を実施

3月27日、東胆振経済懇談会による要望活動が行われ、北海道運輸局へ、「北海道運輸局苫小牧運輸支局(仮称)の新設」、日本政策金融公庫へ「日本政策金融公庫苫小牧出張所の支店への昇格」、「中小企業者に対する融資の円滑かつ弾力的取扱い」を求める要望書を手渡した。

東胆振経済懇談会は、同一経済圏における経済界が協調して共通する問題の解決を図ることを目的に、東胆振の1市4町の経済界(白老・安平・厚真・むかわ町商工会、苫小牧商工会議所)によって構成され、意見交換会や要望活動を行っている。



苦小牧商工会議所 2024年度事業計画 2024年度事業基本方針 頼られる商工会議所を目指して

地元企業を取り巻く環境は、歴史的水準に達した円安や消費者物価・エネルギー価格の高騰の影響、深刻さを増す人手不足など、依然として厳しい状況にあります。コロナ禍を乗り越えて社会経済活動の正常化が加速するなかで、逆境を革新のチャンスと捉え、以下の5つの重点事業を中心に取り組んでまいります。

1. 電力の安定供給、環境関連事業の推進
2. 小企業のカーボンニュートラルへの理解促進と取り組みへの支援

今回は重点事業に絞ってご説明致します。

3. 都市再生コンセプトプラン・駅周辺ビジョン・スマートシティ構想の推進
4. 都市再生コンセプトプラン・苦小牧駅周辺ビジョンの実現に向けた協力の推進

1. 政策提言・要望活動

- (1) 国・道・市等関係機関・団体への提言・要望・陳情活動・政策懇談会
- (2) 苦小牧市スマートシティ官民連携協議会への参画

2. グリーン社会の実現に向けたエネルギー・環境政策への対応

- (1) 創業期・成長期企業への支援
- (2) 多様な課題を抱える成熟期・衰退期企業への支援

(1) 苦小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会への参画

- (1) 創業期・成長期企業への支援
- (2) 多様な課題を抱える成熟期・衰退期企業への支援

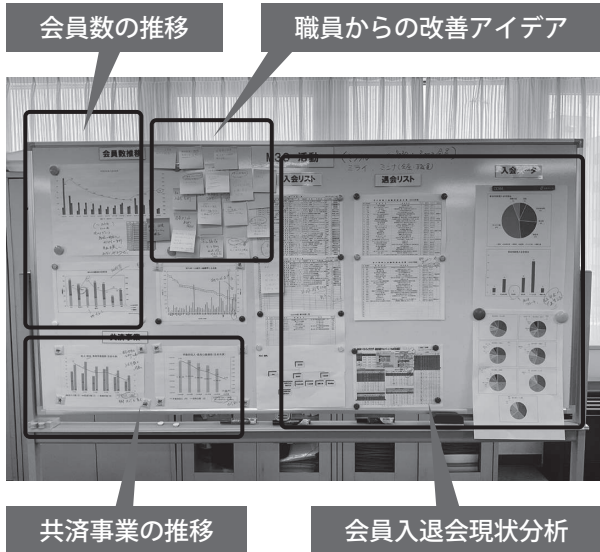
(2) データセンターならびに関連産業集積を目指した企業誘致に関する事業の

- (1) 創業期・成長期企業への支援
- (2) 多様な課題を抱える成熟期・衰退期企業への支援

5. 自ら機会を創り出し、自らを変える！
「M30計画への挑戦！」
商工会議所活動を支える会員企業との結びつきを強めて、組織力強化（3,000会員）への取り組み（M30計画）を通じて、データに基づく「見える化」された事業運営手法の確立と習得を目指します。
「ミライ」の苦小牧商工会議所を「ミンナ」の声から創ります。

- ① あらゆるデータの見える化と分析手法の確立
- ② 目標指標の設定と戦略の立案（選択と集中）、ロードマップの策定
- ③ 先進会議所をベンチマークとした課題の洗い出し
- ④ 「会員みんな」と「職員みんな」の声を集める活動と仕組みづくり
- ⑤ 2030年度までに3,000会員獲得を目指す中長期計画の立案と実行

M30計画とは「ミラクル」な「ミライ」を「ミンナ」で創る
「2030年度」に「3,000会員」を目指す計画です！



M30計画管理板の様子

※詳細は、苦小牧商工会議所HPをご覧ください。
URL : <https://tomakomaicci.jp/pages/20/>



2024年度収支予算書総括表

(単位：千円)

会 計	収入			支出		
	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	本年度予算額	前年度予算額	比較増減
一般会計	146,540	153,520	▲6,980	146,540	153,520	▲6,980
中小企業相談所特別会計	84,540	81,500	3,040	84,540	81,500	3,040
労働保険事務組合特別会計	9,460	9,340	120	9,460	9,340	120
共済制度特別会計	34,720	28,450	6,270	34,720	28,450	6,270
特定退職金共済制度特別会計	212,315	212,410	▲95	212,315	212,410	▲95
経済センター特別会計	89,220	88,770	450	89,220	88,770	450
合 計	576,795	573,990	2,805	576,795	573,990	2,805

経営強化と未来技術の苫小牧フォーラム開催

苫小牧産学官金連携実行委員会、苫小牧商工会議所などは3月14日、経営強化と未来技術の苫小牧フォーラムをホテルウイングインターナショナル苫小牧にて開催した。同フォーラムは2部構成になっており、第1部・第2部それぞれ3名ずつの講演が行われ、合間にドローンなど最

新デジタル機器の展示会をタイムテーブルに含んだ形式で実施された。

第1部基調講演にはITコーディネータで防災士の赤羽幸雄氏を迎え、企業がいま取り組むべき経営の強靱化をテーマに、自然災害やサイバー攻撃に備えるための対策法について説明が行われた。そのほか、(株)北海

道銀行、NTT東日本(株)、パーソルキャリア(株)、北海道電力(株)、地域コミュニティHOP (Hokkaido Open Platform) からもそれぞれ講演が行われ、講演終了後には名刺交換や相談ブースでの個別相談を積極的に行う参加者の様子が多く見られた。



NTT東日本-北海道(株)が展示したドローン



第一部にて基調講演を行う赤羽氏

第15回苫小牧都市再生講演会開催

3月21日、苫小牧商工会議所は苫小牧市・苫小牧市スマートシティ官民連携協議会と共同で、苫小牧都市再生講演会をグランドホテルニュー王子にて開催。各企業の経営者や人事担当者など約100名が参加した。同講演会は苫小牧市の都市再生コンセプトプランを広く知ってもらうために開かれており、15回目の実施となる。今回は「持続可能なITの未来～技術進化と環境の調和～」をテーマとして開催された。

第1部のソフトバンク(株)法人事業統括 公共事業推進本部長 柏木陸照氏は、2024年度の苫小牧市におけるDXがもたらすパラダイムシフトについて、先端テクノロジーが普及されることによって実現される事象と、「AI」と「人」が共存するためにはという二つのテーマに沿った内容で講演を行った。

機関 上席研究員の藤野純一氏がゼロ・ネガティブエミッション苫小牧・北海道に向けてという内容で講演を行い、輸入燃料の課題などを述べた。



第1部にて講演を行うソフトバンク(株)の柏木陸照氏



第2部ではGX（グリーントランスフォーメーション）と地域脱炭素について、(公財)地球環境戦略研究

第2部にて講演を行う公益財団法人地球環境戦略研究機関の藤野純一氏



第3部にて講演を行う(株)日本総合研究所の東博暢氏

第3部では今後の苫小牧のDX・GXを活用したまちづくりについて、(株)日本総合研究所のプリンシパル東博暢氏が、昨年行われた自動運転バスの実証運行やトマコマイミライフェストの水素活動などの事例を用いて講演を行った。

苫小牧工業高等専門学校協力会 若手研究者に対する研究助成発表会

苫小牧工業高等専門学校協力会（関根久修会長＝苫小牧港開発株）は3月22日、苫小牧経済センタービル6階大ホールにて苫小牧工業高等専門学校協力会若手研究者に対する研究助成成果発表会を開催した。本研究助成発表会を行うのは2022年度に引き続き2回目。苫小牧高専に赴任後5年以内の若手研究者を対象に会員企業との共同研究を条件として研究費を助成する。実施の背景としては、赴任後間もない研究者と協力会会員企業とのつながりを増やし、若手研究者の育成と協力会企業

との関係性の構築を目的に行っている。今回は加藤晃准教授（研究テーマ：「泥炭由来有機酸による再生コンクリート骨材に含まれる六価クロムの還元に関する研究」）、大澤拓門助教（研究テーマ：「決定木学習を活用した工場の不良品検出自動化」）、上場一慶助教（研究テーマ：「AIによる画像診断を用いたライン上での仕分けの効率化」）の3名が、これまでの研究経緯と今後の展望などを発表した。

当日は協力会参加企業から、

対面・オンライン併せて22名が発表を聴講。発表後は質問が飛び交い発表者、参加者共に実りのある時間となった。その後も発表者との意見交換が行われた。



苫小牧地域産学官金連携公開セミナー開催

苫小牧地域産学官金連携実行委員会（金谷幸弘実行委員長＝（公財）道央産業振興財団）、は3月28日、苫小牧地域産学官金連携公開セミナーをホテルウイングインターナショナル苫小牧にて開催した。本セミナーはものづくりの素晴らしさを伝え、ものづくりのヒントとしてもらうべく、例年開催している。今回は、「半導体技術と次世代人材育成」をテーマに、実行委員会構成メ

ンバーである苫小牧工業高等専門学校、室蘭工業大学の協力のもと実施。講師は苫小牧工業高等専門学校副校長（教務主事）創造工学科（総合人文科学系）教授松田奏保氏、室蘭工業大学もの創造系領域電気電子工学ユニット准教授植杉克弘氏の2名がそれぞれの講演を行い、約20名の参加者が耳を傾けた。

松田氏は「北海道内高専における半導体教育及び本校におけるスター

連携を行いながら取り組んでいると述べたほか、昨年12月に開設された創造工学工房についても触れ、「AI教育×スタートアップ教育×創造工学工房」で、デジタル技術を駆使した新しい事業の創成を目指したスタートアップ教育の展開についても紹介した。

植杉氏は「半導体結晶成長や微細加工などの製造プロセス技術について」と題し、半導体の構造や製造プロセスについての講演を行った。また、将来技術の研究開発として、金属酸化半導体ナノ構造を用いた太陽電池や人工光合成技術の開発についての紹介があった。

両者の講演後には活発に情報交換がなされ、今話題の半導体についての知識を得る機会となった。



トアップ教育について」と題し、苫小牧高専を含めた北海道地区4高専での半導体教育について産学官との

とまポンカードサービス終了のお知らせ

とまポンカードをお持ちの皆様へ
2025年3月31日(月)までのご利用となります

この度、2025年3月31日(月)をもちまして「とまポンカードサービス」の提供を終了することになりました。

2006年12月の開始より「とまポンカードサービス」をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。お客様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。とまポンカードを長らくご利用いただき、心より感謝申し上げます。

※とまポンカードの窓口販売は既に終了しており、現在カードをお持ちの方のみサービス終了まで継続してカードを利用することができます。

ご利用いただける店舗やサービスの変更は
苫小牧商工会議所HPよりご確認ください。



<https://tomakomaicci.jp/pages/6/>





アクサ生命



みんなと
会社の未来を
健康に。

Know You Can

そう。あなたなら、できる。

AXA-A2-2209-1161/9WD 「健康経営[®]」は、特定非営利活動法人健康経営研究会の登録商標です。

83%が実感!

アクサ式やりがい効果

※アクサ式導入企業756社のデータより

健康経営アクサ式

やりがいが集まって、会社はつよくなる。

「離職率が下がり始めている」「生産性がアップしてきた」。いま、経営者の皆様のそんな声が増えています。それはきっと、アクサの健康経営による「やりがい効果」。心と身体の健康をケアすることはもちろん、ある会社では「仕事と治療の両立」や「社内サークル活動」などに取り組み、夢や生きがい、働きがいといった「社会的健康」までをサポートしています。社員一人ひとりがやりがいをもって働ける環境をつくり、会社全体も元気に変えていくために。アクサ生命がお手伝いします。

アクサ生命は、商工会議所と協力し、会員事業所の各種ニーズ(弔慰金・見舞金制度、退職金制度、リスク対策や事業承継など)を共済制度／福祉制度でサポートしています。

アクサ生命保険株式会社 苫小牧営業所
〒053-0022 苫小牧市表町1-1-13 苫小牧経済センタービル6F TEL 0144-33-6833

ご利用
ください

専門相談室 2024年5月の予定

事業経営に必要な専門的アドバイスは、
商工会議所・中小企業相談所の専門相談員にご相談ください。
事前予約が必要な場合がございますのでまずはご連絡ください。

法律相談	登記相談	経営相談	労務相談
弁護士 岡田秀樹氏 【6月を予定】	司法書士 千葉武徳氏 【随時】	中小企業 診断士 岩佐秀明氏 【5/17 (金)13:00-15:00】	社会保険 労務士 定蛇 萌氏 【6月を予定】
各種相談を 希望される方	税務相談	発明・特許相談	許認可申請相談
苦小牧商工会議所に TEL(予約手続き)	税理士 別段 清氏 【常駐 10:00-16:00】	弁理士 内藤拓郎氏 【5/15(水)9:45-11:45】	行政書士 山口美津男氏 【随時(月・水・金)】
当日予約時間に お越しください	日本政策金融公庫中小企業事業部 …… 希望する方はお電話でお問い合わせください。 中小企業団体中央会 …… 毎週水曜日 10:00-12:00 北海道信用保証協会経営相談 …… 第1・第2木曜日 10:00-16:00 日本政策投資銀行 …… 希望する方はお電話でお問い合わせください。		

予約・お問い合わせ

苦小牧商工会議所・経営支援課

TEL: 61-1130

※事業承継相談は経営支援課まで

苦小牧商工会議所人事 2024年4月1日発令。括弧内は前職。

専務理事兼事務局長	(専務理事)	外園心一
部長職	総務部 部長 (総務部長兼中小企業相談所長) 経営支援部 部長 (商工振興部地域振興課長兼事業推進課長)	高橋明利 堀抜信吾
課長職	総務部総務課 課長 (総務部総務課課長) 経営支援部経営支援課 課長 (総務部総務課総務係長)	中村 航 芹澤朋裕
係長職	経営支援部経営支援課 係長 (商工振興部事業推進係長) 経営支援部経営支援課 係長 (商工振興部地域振興課主事) 経営支援部経営支援課 係長 (商工振興部地域振興課主事)	三浦孝祐 若山一步 山下拓也
主任職	総務部総務課 主任 (商工振興部地域振興課主事) 総務部総務課 主任 (総務部総務課主事) 総務部総務課 主任 (商工振興部事業推進課主事) 総務部総務課 主任 (総務部総務課主事) 経営支援部経営支援課 主任 (商工振興部事業推進課主事) 経営支援部経営支援課 主任 (総務部総務課主事)	宮下あみ 新保楓菜 高藤和綺 鈴木 梓 長田唱子 大岩美穂
主事職	総務部総務課 主事 (総務部総務課職員) 経営支援部経営支援課 主事 (商工振興部地域振興課職員) 経営支援部経営支援課 主事 (商工振興部地域振興課職員)	木村恭太郎 牛窪純平 井上美穂

退職 (2024年3月31日付)

常務理事兼事務局長	末松 仁
商工振興部地域振興課主事	大場芽吹

編集後記

年度の初めは、新しいことを始めるチャンスですね。環境や立場が変わり、忙しい方も多いと思います。新しい目標や趣味を見つけ、無理のない範囲で取り組んでみることも良いかもしれません。「雪が溶けて暖かくなってきたから、ジョギングでも始めてみようかな?」「4月はじまりの日記を買って、一行日記から始めてみようかな?」など、できそうなことからチャレンジしてみるのもおすすめです! (よろい)



「引き寄せ合って出会う」あたたかな場所 株式会社リアリ（訪問看護ステーション リール）

今回紹介する会員さんは、三光町に事務所を構える「株式会社リアリ」。代表の後藤香織さんに、会社のサービス内容や今後の目標についてお話を伺いました。



訪問バッグを持つスタッフ

子どもの頃からの夢をかなえて
小さい頃、自身や母親が病気で入院を繰り返して、病院にお世話になってきたと語る後藤さん。医療に携わる道を志したことは自然なことだったと話す。看護助手として働き、医療の専門学校を卒業し市内の病院に勤め、以来約30年間看護師として活躍してきた。



訪問バッグの中身

今更に後悔はないかという。「〇〇さんの痛みは和らいだかな」「△△さん、大丈夫かな」と、退院した患者を気に掛ける日々が続く中で、以前の同僚が千歳市で訪問看護ステーションを開業。刺激を受けた後藤さんは、「自分も、退院後も状況に悩む方をサポートし続けたい！」と思い立ち、昨年の6月に訪問看護ステーションリールを開業した。

周り引き寄せ合い、生まれるサービス

訪問看護の回数や内容は、利用者によって異なる。本人やその家族、医師やケアマネジャーなどと連携し、相談を重ねながらリハビリなどのケア内容を決めていく。

もちろん、利用を続ける中で利用者の症状や状況が変化することもある。そのつど相談し合い、ケア内容を変えていくことも多い。事業所名の「リール」は「引き寄せ合う」という意味があり、利用者やその家族、関連医療機関と



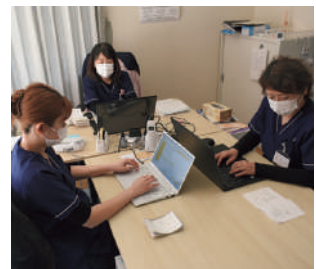
チラシとパンフレット

も、引き寄せ合って生まれていく「縁」を大事にしていきたいという思いを込めたと後藤さんは話す。また、日々の利用者支援では「それぞれの生活背景を考慮すること」が大切といい、例えば一人暮らしの方には、買い物などの移動で荷物を持ったまま冬道を安全に歩くための練習や、一軒家に住む方は、家の階段や絨毯などつまずきやすいポイントのアドバイスなどをふまえた歩行リハビリを行う。

さらに多くの「縁」を広げる

70～90代の利用者それぞれの日常・事情を常に利用者目線で考えた声掛けやサポートを行うことで、利用者やその家族から感謝されるという。

今後は、「もっと多くの利用者さんや医療機関の方とつながり、縁を深めていきたい。スタッフも増やし、理念に共感してくださる方と支え合いながらよりよいサービスにつなげていきたい」と後藤



毎日のミーティング風景

取材を通して感じたこと

取材陣やスタッフにも「明るく、優しく」接していた後藤さん。年齢や立場に関わらず、人と関わるうえで、相手に対する尊重が常に根底にあるのだと感じました。日常生活を送るうえで、大切にしていることや好きなものなどは誰もが違うもの。そういった違いを尊重することの大切さに改めて気付く時間となりました。

さんは語る。利用者の多くは、状況に関するつらさやストレスなど、知らないうちに多くの悩みを抱えやすい。その時に無理強いをしたり、相手が納得していない内容のサポートをしたりすることは、利用者や不安にさせてしまう。「開業してまだ1年未満なので、同業の方々に指導していただきたい」ともたくさんある。利用者の不安が和らぐことを第一に考え、その方の日常を崩さずサポートしていく方法を考えていきたい」と語る後藤さんは、これからも挑戦を続けていく。



アクセスマップ

